

(6) 相互に分かれようとしている途中の打突は、有効打突とせず、状況により合議の上、反則を適用する。
特に一方が分かれようとしている場合に「追いついて打突」したり、「分かれようと思わせた打突」や、「分かれようと思わせた打突」等の行為は、有効打突とせず、状況により合議の上、反則を適用する。

(7) どちらか一方が分かれようとしていない、又は分かれようとしている相手に接近していく行為は、試合審判規則第1条に則り、合議の上、反則と判断する。(主審の裁量)

(8) 意図的に相手に接近する「時間空費」「防御姿勢(勝負の回避)」行為は、試合審判規則第1条に則り、合議の上、反則と判断する。

(9) 意図的な「時間空費」や「防御姿勢(勝負の回避)」による相手に接近するような行為は、試合審判規則第1条に則り、合議の上、反則と判断する。

◎重要

この問題については、審判員の裁量だけで解決するのは困難であり、事前に試合者に対して、十分な指導を徹底することが必要である。

9. その他【竹刀検査】

竹刀検査は、「3密」状態になりやすく感染リスクが高まるので、下記の事項に留意して実施する。

- (1) 検査を受ける者は、マスクとフェイスシールドを着用する。
- (2) 検査員は、マスクとフェイスシールドを着用し使い捨て手袋を着用する。
- (3) アクリル板等で検査員と検査を受ける者を仕切る。
- (4) 「検査」→「退場」のルートを一方通行にする等工夫する。
- (5) 待機時に間隔をとる。(床にテープを貼る等、位置決めをする。)

※ 指示《試合・審判委員会委員長～香田範士》

本年3月14日に実施予定の「全日本剣道選手権大会」では、感染予防のため、前日に竹刀検査を上記の要領で実施し、検査を終えた竹刀は、大会本部が当日まで預かる措置を執る予定である。

10 観戦り合いを避けて試合を実施することの影響

- (1) 試合時間内で勝敗が決する割合が高くなる。
- (2) 観戦り合いで一息つく、休める時間がないので、試合者にとっては大変ハードな試合展開になる。

したがって日頃から厳しい稽古を積んで地力のある選手が最後は有利になることが予想される。

(剣窓1月・2月号参照)